

放射線療法前オリエンテーション用紙の 改善に向けての取り組み

救命救急センター

発表者○石濱 好乃

杉山みどり 岩田ますみ 平原 広登

はじめに

2012年の「外来放射線治療診療料」の算定開始に伴い、放射線外来では専従看護師が配置され、主治医の診察日以外は主に専従看護師が面談を行うようになった。専従看護師の面談では外来通院患者が予定通り放射線治療を完遂できるように、有害事象の観察やセルフケア指導などの看護介入を行っている。患者には治療決定時に、「放射線治療を受ける方へ」という治療前オリエンテーション用紙（以下説明用紙）を用いて患者にオリエンテーションを行っているが、オリエンテーションを行う看護師は専従以外のこともあり、放射線治療についての専門的知識や経験には看護師間で差があり、説明内容にもばらつきがあると予想された。また、専従看護師は面談を通して患者が色々な疑問や不安を抱えていることも感じていた。

そこで放射線治療開始前の患者の疑問や不安を最小限にするため、面談を通して患者から聞かれた疑問や不安の内容を明らかにし、オリエンテーション用紙の見直しに取り組むことにした。

I. 研究目的

患者が治療開始決定時から終了までに抱く疑問や不安の内容を明らかにし、治療開始前のオリエンテーション用紙の内容の改善を図る。

II. 研究方法

1. 対象：外来で放射線治療を受けている患者
2. 期間：平成26年1～2月
3. 方法：
 - 1) 電子カルテのSOAPに記載された過去の面談記録（平成25年6～7月）から患者の不安や疑問とみなされる発言を抜き出す。
 - 2) 面談記録から得られた結果を集計し、類似

した内容をカテゴリーに分ける。その際、対象の属性（性別・照射部位）を把握した。

3) カテゴリーの中でも特に、頻度の高かったカテゴリーを参考に、新しいオリエンテーション用紙を作成した。

III. 結果

1. 対象の属性

平成25年6～7月に放射線治療を受けた外来患者は、合計84名であった。（性別内訳：男47名、女37名）（照射部位内訳：頭部1人、頭頸部8人、胸部13人、乳房25人、腹部15人、前立腺21人、骨1人）

2. 面談記録からの疑問・不安内容

面談記録から抽出した疑問・不安内容の言葉から、①治療スケジュール②日常生活上の注意点③セルフケア④治療内容⑤副作用の5つのカテゴリーに分類した（内容の抜粋は表1参照）。

①治療スケジュール

「治療中」「治療後」「生活サイクルとの調整」「調子が悪い時の対応」から生成された。

「治療中」では、治療にかかる時間や待機場所について、「治療後」では、治療終了後の次の治療や体の状態について挙げた。また、「生活サイクルとの調整」では、治療を行うにあたり現在の仕事との両立やその調整について、「調子が悪い時の対応」では、休日、時間外での受診について挙げた。

②日常生活上の注意点

「マーキングの取り扱い」、「日常生活上の制限」、「皮膚ケア」から生成された。

「マーキングの取り扱い」では、日常生活上でマーキングが薄くなることへの不安や薄くなった場合の対応について挙がり、「日常生活上の制限」には飲酒や食事、運動に関すること、「皮膚ケア」では日焼けや温泉につかることは

可能か、また乳液の使用などについて挙げた。

③セルフケア

「下着の選択」「水分摂取」「排便コントロール」から生成された。

「下着の選択方法」では、乳房照射患者のブラジャーの選択方法や変更時期などに関することや「排泄コントロール」では、前立腺照射患者の排便コントロールや治療前の蓄尿方法について挙げた。

④治療内容

「放射線治療の原理や方法」「治療効果」「現在の症状」「薬剤の処方・受診」「薬剤の使用方法」から生成された。

放射線のことや治療による効果や症状・使用薬剤に関する内容など放射線治療に関する知識について挙げた。

⑤副作用

「副作用の出現」「皮膚炎」「倦怠感」「肺炎」「排尿障害」「疼痛」「脱毛」から生成された。

放射線治療による副作用の出現時期やその症状・経過について挙げた。

3. オリエンテーション用紙の作成

上記の結果から、外来での看護師の関わりで介入できる①治療のスケジュール、②日常生活上の注意点などについて説明用紙に追加した。

IV. 考察

面談時の患者の疑問や不安の傾向として、①今現在の症状や状況について、②今後の経過についてと放射線治療中の自分の状態に関心が向いていることがわかった。①今現在の症状や状況については、自分に今このようなことが起こっているのはなぜだろうかという思い、②今後の経過については、これからどんなことが起こり得るのか知りたいという思いがあると考えられる。宮田¹⁾は「患者の抱えている不安を具体的に把握し、不安の内容に基づいた正しい知識が、患者の不安を最も軽減させる。特に放射線治療開始前のオリエンテーションは出来る限り不安を解消できるように充実させる必要性がある」と述べている。今回の結果をもとに、治療開始前のオリエンテーションで患者が必要とする情報を提供することは、患者の不安を軽減させると共に、治療への心構えができると考える。

放射線治療は、仕事を続けながら生活スタイルを変えずに、社会的役割を保ちながら受けられる治療である。面談内容の記録で①治療スケ

ジュールや②日常生活上の注意点、③セルフケアについて項目が挙げてきたことは、外来通院で治療が受けられる放射線治療の特徴を表しているのではないかと考える。放射線治療の開始にあたっては、患者自身が治療と日常生活を関連させて治療中の生活のイメージとリズムをつけるための援助が求められる。そのためにも治療前のオリエンテーションで、患者の生活に焦点を当てた情報やセルフケア能力、家族のサポート体制などをつかみ、患者が知りたいと思う情報を発信することが看護師の役割として求められている。

今回作成した説明用紙を使用することで、患者の求める治療スケジュールや日常生活での注意点について盛り込まれていることから、看護師間での説明内容の差をなくし、患者が求める情報について統一した説明ができると考えられる。

V. 結論

1. 放射線治療を受ける患者は、①治療スケジュール②日常生活上の注意点③セルフケア④治療内容⑤副作用などに関心を寄せていることがわかった。

2. 患者の関心が知りたいと思っている情報をオリエンテーションで伝えることによって、疑問・不安の軽減に繋げることができ、看護師間の説明内容の統一化を図ることができる。

まとめ

新たにオリエンテーション用紙を作成したが、それが患者にとっても説明する側の看護師にとっても本当に望ましい形であるのか、現段階ではまだ不明であるため、今後はこのオリエンテーション用紙を実際に運用し、評価を行っていく必要があると考える。

引用文献

1) 宮田千昌：放射線による治療と看護,看護技術,57(11),49,2011

参考文献

1) 藤本美生:がん放射線療法ケアガイド,患者の理解と意志決定の支援,76,2009

2) 瀬沼麻衣子、武居明美、神田清子、瀬山留加、篠田静代、北田陽子、五十嵐玲子：外来で放射線療法をうけているがん患者のQOLに影響する要因、Kitakanto Med J 2011

放射線療法前オリエンテーション 用紙の改善に向けての取り組み

救命救急センター
石濱好乃、杉山みどり、岩田ますみ
平原広登

●放射線科外来の現状●

- ◆看護師の専従制度を導入し、主治医の診察日以外に、看護師が外来通院患者に対し、面談を行っている
- ◆治療を開始する患者に対して「放射線治療を受ける方へ」の説明用紙を用いてオリエンテーションを行っている
- ◆専従者以外の看護師もオリエンテーションを行うことがある

●問題点●

- ◆説明内容が看護師の知識・経験値によってばらつきがある
- ◆専従看護師と外来通院患者との面談の際にもさまざまな疑問・不安が聞かれた



オリエンテーション用紙の見直し

●対象・期間●

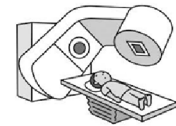
○対象

放射線科外来通院患者

84名(男性：47名 女性：37名)

○期間

平成26年1月～2月



●対象患者の内訳●

照射部位	人数
頭部	1
頭頸部	8
胸部	13
乳房	25
腹部	15
前立腺	21
骨	1
合計	84

●方法●

- 1 過去の外来通院患者の面談記録からの疑問や不安を抽出する
- 2 抽出内容を分析し、類似した内容をカテゴリーに分類
- 3 分析結果をもとに、新たな説明用紙を作成する

●カテゴリー分類結果●

①治療のスケジュール

②日常生活上の注意点

③セルフケア

④治療内容

⑤副作用

①治療のスケジュール

- ・治療中のスケジュール
- ・治療後のスケジュール
- ・生活サイクルとの調整
- ・体調が悪いときの対応

②日常生活上の注意点

- ・マーキングの取り扱い
- ・日常生活上の制限
- ・皮膚ケア

③セルフケア

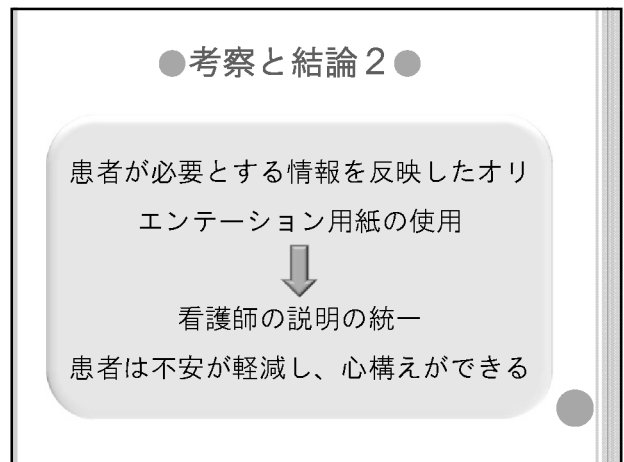
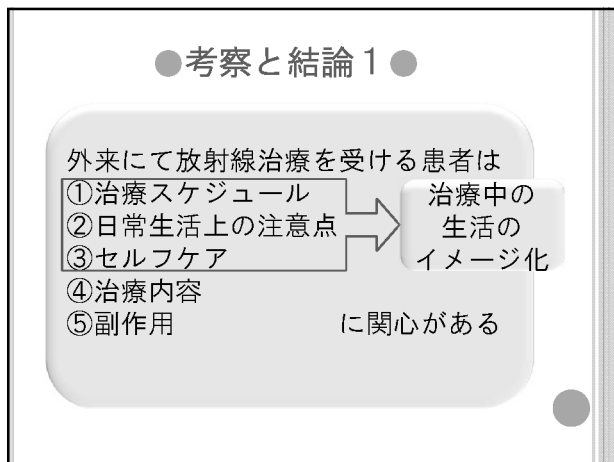
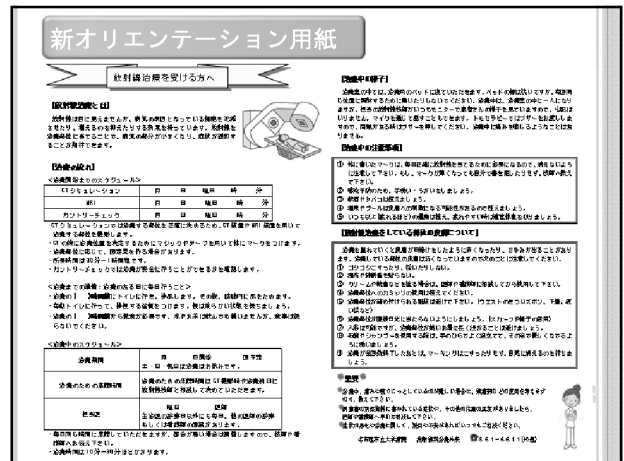
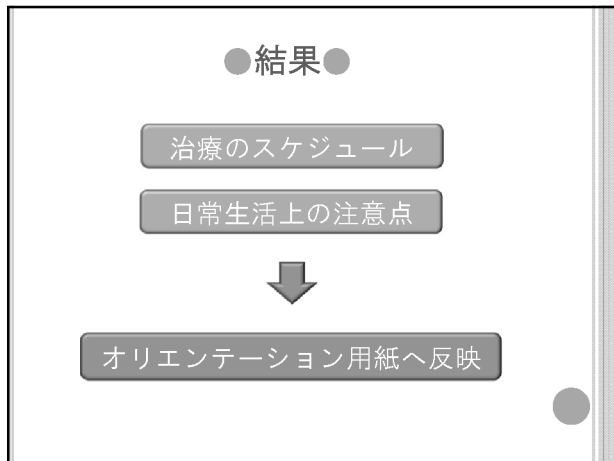
- ・下着の選択
- ・水分摂取
- ・排泄コントロール

④治療内容

- ・放射線治療の原理や方法
- ・治療効果
- ・現在の症状
- ・薬剤の処方・受診
- ・薬剤の使用法

⑤副作用

- ・副作用の出現
- ・皮膚炎
- ・倦怠感
- ・肺炎
- ・排尿障害
- ・疼痛
- ・脱毛



●まとめ●

今後は新オリエンテーション用紙を実際に運用し、評価を行っていく必要がある

